



FFG について

成長の軌跡	77
組織概要／FFGが培ってきた強み	78
熊本銀行頭取メッセージ	79
十八親和銀行頭取メッセージ	81
福岡中央銀行頭取メッセージ	83

成長の軌跡

1877年～

- 1877年 九州初の国立銀行として、第十七国立銀行（福岡銀行の前身）設立
- 1877年 第十八国立銀行（十八銀行の前身）設立
- 1879年 第九十九国立銀行（親和銀行の前身）設立
- 1929年 熊本無尽株式会社（熊本ファミリー銀行の前身）設立
- 1951年 正金殖産無尽株式会社（福岡中央銀行の前身）設立

2000年～

- 2001年 福岡銀行が1,750億円の貸倒引当金計上（768億円の赤字決算）により、不良債権と訣別
- 2006年 福岡銀行と熊本ファミリー銀行の経営統合に関する基本合意
- 2007年 ふくおかフィナンシャルグループ設立



- 2008年 FFGビジネスコンサルティング設立
- 2010年 FFGの経営スタイル「シングルプラットフォーム・マルチブランド」を確立
- 2012年 前田証券の完全子会社化（現FFG証券の誕生）
- 2013年 熊本ファミリー銀行から熊本銀行に商号変更
- 2016年 十八銀行との経営統合に関する基本合意
- 2016年 iBankマーケティング設立
スマホアプリ「Wallet+」リリース
- 2016年 FFGベンチャービジネスパートナーズ設立
- 2018年 十八銀行との経営統合に関する公正取引委員会の統合承認取得

2019年～

- 2019年 十八銀行との経営統合
- 2020年 親和銀行と十八銀行の合併
十八親和銀行誕生



- 2021年 サステナブルスケール設立
- 2021年 FFG成長投資設立
- 2021年 みんなの銀行サービスイン



- 2022年 FFGサクセッション設立
- 2023年 FFGインダストリーズ設立
- 2023年 個人バンキングアプリ・事業者向けポータル「BIZSHIP」リリース

- 2023年 福岡中央銀行との経営統合

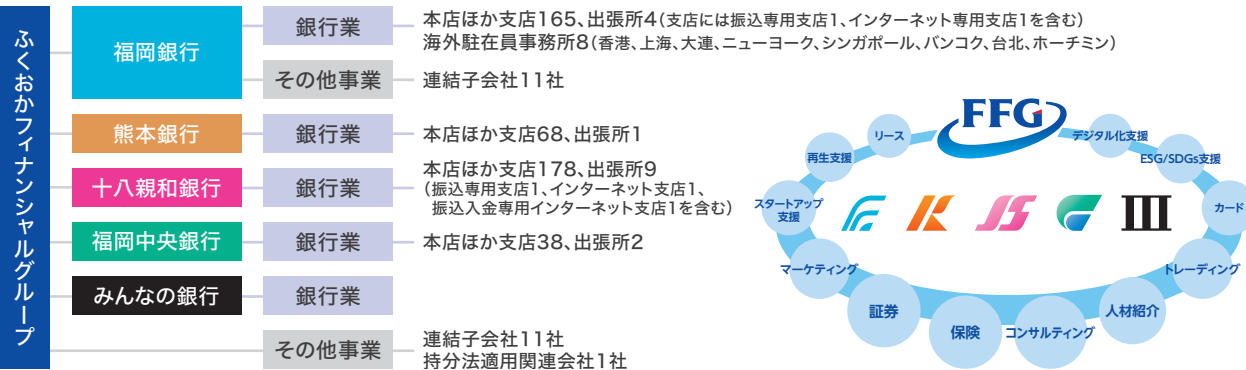


- 2025年 個人バンキングアプリ、120万ダウンロード突破

組織概要／FFGが培ってきた強み

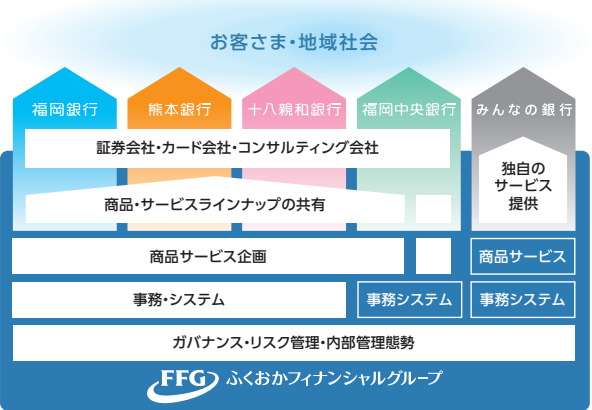
FFGは28社のグループ会社で構成されています。福岡・熊本・長崎を主要マーケットとし、証券・保険・コンサルティングをはじめ、マーケティングやスタートアップ支援といったお客さまのあらゆるニーズにお応えできる総合金融グループです。各銀行や関連会社を含めたグループ全体最適の考えのもと、グループ一体での運営体制を構築しています。

FFGの事業系統図



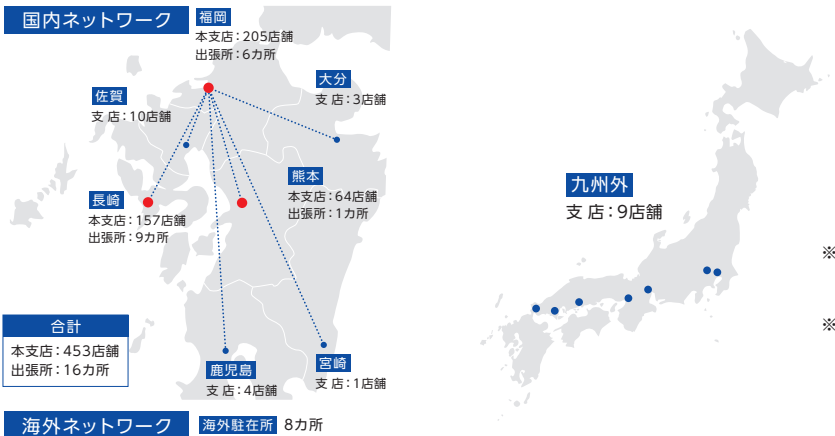
シングルプラットフォーム・マルチブランド

福岡・熊本・長崎の各地域のお客さまに、古くから親しまれてきた各行のブランドを維持しながら、一方で、事務・システムや商品サービスといった内面を共通化することで、規模の利益と効率性を同時に追求できる、地方銀行の経営統合に最も適した経営スタイルを確立しています。また、国内初のデジタルバンクであるみんなの銀行は、FFGのガバナンスやリスク管理のもとで、全国のお客さまにユニークなサービスを提供しています。



確固たる営業基盤と稠密なネットワーク

九州を一つの経済圏と捉え、マザーマーケットである福岡・熊本・長崎を中心に、九州全域を継ぎ目なくカバーする広域展開型金融グループです。各行が築き上げてきた信用・信頼のもと、法人・個人ともに高い支持を獲得し、営業基盤は地方銀行グループでトップクラスを誇ります。



※福岡県の支店には振込専用支店1、インターネット専用支店1を含む。
※長崎県の支店には振込専用支店2、インターネット専用支店1を含む。
(2025年6月末時点)

熊本銀行頭取メッセージ



熊本銀行
取締役頭取

坂本 俊宏

「熊本になくてはならない銀行」を
目指して
～ゆたかな地域社会実現への貢献～

熊本県の経済と今後の見通し

熊本銀行の主要営業エリアである熊本県は、九州地方第2位の経済規模を有しており、多様な産業が発展しています。

主要産業の一つである製造業においては、近年TSMCの進出をはじめとする半導体関連産業の集積が加速しており、新たな雇用創出と経済成長への貢献が期待されています。観光産業においては、阿蘇山や黒川温泉、天草の島々、着実に復旧が進む熊本城など、国内外から高い人気を誇る観光資源を有しています。また、豊かな自然に育まれた農業は、米、野菜、果物のほか畜産、工芸作物、花きなど多岐にわたり、アジアを中心とした需要の高まりから今後更なる成長が見込まれています。

一方で、熊本県もその他の地域と同様に人口減少と高齢化という社会課題に直面しており、地域経済の縮小をはじめとするさまざまな影響が懸念されています。また、熊本地震や人吉豪雨といった、自然災害による甚大な被害からの復興・復旧も取り組むべき課題の一つです。

熊本銀行は、地域金融機関として、これらの社会課題に真摯に向き合い、熊本県の更なるゆたかさの実現に貢献したいと考えています。

長期的に目指す姿

地元熊本県におけるゆたかな地域社会の実現に向けて、熊本銀行が担うべき役割は、「熊本銀行とお取引いただくことで、個人や企業の経済的なゆたかさに加え安心や幸せを

実感していただく、そしてお客さまのさまざまなつながりを通じて、そのゆたかさが熊本県内の隅々にまで広がっていくことで、更にお客さまのゆたかさが増大する」という好循環を熊本で創造することだと考えています。

当行はこれまで、きめ細やかで親密な営業スタイルを強みに、最も身近で頼れる存在として、お客さまに安心感を提供し、お客さまとの強固な信頼関係を築いてきました。今後の更なるゆたかさの実感と増大という好循環の創造に向けては、当行の持つ親しみやすさにFFGが持つ先進的なサービスや広域ネットワークを融合し、「FFG・熊本銀行だから提供できる強み」をお客さまに提供し、より多くのお客さまに熊本銀行の良さを実感していただくことが必要です。

4月から銀行アプリのQRコードを読みこむことで、銀行ATMからカードレスでお金を引き出せるサービスがFFG3行で始まりました。お客さまに、「キャッシュカード無しでお金を引き出せるなんて、こんなサービスこれまでなかった!」と喜びの声が聞かれています。ほんの一例ですが、「FFG・熊本銀行だからお客さまに提供できる強み」、それはFFGの一步先を行く利便性と先進性、そして熊本銀行の安心感と信頼感です。

私たち熊本銀行は、これらを兼ね備え、地域社会の発展に貢献し続けるとともに、他にはなく「熊本銀行“が”いい」と多くのお客さまから支持される銀行となるべく、10年後の目指す姿に“ゆたかな地域社会の実現に貢献する「熊本になくてはならない銀行」”を掲げることといたしました。

第8次中期経営計画

このたび策定した第8次中期経営計画は、10年後目指す姿の実現に向けた最初の3年間にあたり、本中計を「熊本県のより多くのお客さまに熊本銀行の良さを実感していただく3年間」と位置づけています。また、本中計では「既存ビジネスの変革」、「強靱な基盤造り」の基本方針のもと、次の3つを重点取組に掲げ、顧客基盤の拡充に注力してまいります。

〈既存ビジネスの変革〉

①抜本的な事業構造の改革

営業体制や行員の意識と行動の抜本的な変革に取り組み、デジタルやAI、マーケティングを有効に活用しながら、効率的に高いパフォーマンスを発揮する組織へ進化させることで、営業生産性の飛躍的向上を目指します。

②ゴールベース型営業の深化

これまで取り組んできたゴールベース型営業をお客さまの目指すゴール実現に向けた伴走に留まらず、ゆたかな地域社会の実現につながる新たな価値をお客さまとともに創造するステージへ深化させます。

〈強靱な基盤造り〉

③強固な経営基盤の確立

既存ビジネスの変革を下支えする、経営資源投下の選択と集中、人的資本経営の実践、熊本銀行ブランドの強化・浸透に取り組み、競争優位性を強化し、持続的成長を目指します。

熊本銀行は、2029年1月に創業から100周年を迎えます。熊本銀行の新たな歴史を刻みながら、“ゆたかな地域社会の実現に貢献する「熊本になくてはならない銀行」”を目指して、役職員一丸となって邁進いたします。

これからの熊本銀行にご期待いただくとともに、これまで同様のご愛顧とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



営業担当者の想い

熊本銀行 本店営業部

原口 朝光



私は、熊本銀行の本店営業部で法人営業を担当しています。FFGの営業スタイルである「ゴールベース型営業」の実践に向けて、ご融資の提案に留まらず、補助金の活用やデジタル化支援など、お客さまの本業支援・課題解決につながるソリューションを提供することを日々心掛けながら営業活動をしています。

先日、お取引先の代表者から事業承継についてご相談をいただくことがあり、本部の所管部署と連携し、必要資金のご融資の提案とあわせ、自社株の株価算定や事業承継スキームについてご案内いたしました。その際、お客さまから「こんな方法があるなんて知らなかった。借入れ以外の相談にもかかわら

ず、親身に対応いただきありがとうございます。」といった感謝の言葉をいただき、お客さまに寄り添った営業の大切さを改めて実感しました。

4月からスタートした新理念体系では、FFGの存在意義として「一步先を行く発想で、地域に真のゆたかさを。」を掲げています。私は、法人営業の業務を通して、熊本県内の事業者の皆さまに、他の金融機関に先駆けた発想で本業支援につながる提案・お声かけを積極的に行うことで、お客さまの事業の発展・企業価値の向上といったゆたかさを届けたいと考えています。

FFGでは、デジタル/AIの活用により、お客さまの課題・ニーズを適切・タイムリーに把握し、その解決に資する最適なソリューションをあらゆる接点で提供することを目指しています。加えて、熊本銀行の強みである「親しみやすさ」や「お客さまとの距離の近さ」を十分に発揮し、何でも相談いただけるような信頼関係を築くとともにお客さまへの理解を深めることで、お客さまのゴールの実現、地域の成長に貢献していきます。

十八親和銀行頭取メッセージ

十八親和銀行
取締役頭取

山川 信彦

ながさを“もっと”元気に
地域経済の持続的な成長に向けて
～「共創型ビジネス」確立への挑戦～

長崎県の現状と将来環境

当行が営業基盤とする長崎県は、九州の西北部に位置しており、異国の文化を受け入れながら栄えてきた歴史と文化を背景に、美しい自然が調和し、世界遺産をはじめとした豊富な観光資源や食に恵まれています。また、多くの離島や半島を有しており、沿岸部といった地理的な特性がある地域は洋上風力発電の適地として注目されるなど、さまざまな魅力と発展の可能性を有しています。

一方で、人口減少や少子高齢化が全国に先行して進んでいることや、若年層の県外流出による労働力不足、産業構造の変化、地域医療・福祉体制の維持など、地域課題が顕在化しています。

世の中は想像を超える速さで変化しており、不確実性の高い環境が到来しています。多くのお客さまから信頼され、お取引をいただいている当行は、地域が抱える課題に真正面から向き合い、その解決に全力で対処することで、地域とともに成長し、持続可能なゆたかな地域社会の実現に貢献したいと考えています。

長期的に目指す姿

当行は今年の10月で十八銀行と親和銀行の合併から5年を迎えます。合併以降、多くの方々のご支援とご協力があったからこそ、地域に根ざした金融機関として成長を続けることができました。

これからもFFGの一員として、創りたい社会である、「経済的・物質的・精神的にゆたかな地域社会」の実現を目指

していきます。

私たちは創りたい社会の実現に向けて、長期的に目指す姿を「ながさを“もっと”元気に～ゆたかさ共創銀行～」と掲げました。この長期ビジョンには、「人口は減少する中においても、元気人口を増やしていきたい」との想いを込めています。金融サービスを通じて、元気な人を1人でも多く、元気な企業を1社でも多く増やし、地域の人々が将来に希望を持ち、積極的に行動できる地域づくりに取り組んでいきます。

第8次中期経営計画

当行は長期ビジョンを実現するために、本年度から開始される第8次中期経営計画のコンセプトを「共に創る～個の力をつなぎ、あらたな価値(ゆたかさ)を創り出す～」と定めました。

地域課題の解決に向けて、産学官金、個々の企業同士、産業のつながり、異業種間との連携、法人・個人のお客さまなど、地域経済を構成する思いをともにする方たちと、共創型ビジネスの確立に挑戦し、地域における新たな価値創造を目指します。これは合併行である私たちだからこそ可能なアプローチであると考えています。

新しい中期経営計画を実践するにあたり、私たちは、5つの共創戦略を定めました。

①産業発展支援

お取引先への伴走支援を通じたコンサルティング力をさらに深化させ、ビジネスモデルの強靱化や生産性向上を支援いたします。また、既存産業や今後成長が期待される産業に

ついて、競争力・価値向上に向けた成長支援に注力します。

②経済活動の活性化支援

長崎県内で生み出された付加価値が、地域内で好循環する仕組みを作るため、産学官金および業界団体と連携した座組の構築、地域の特色ある事業や、産業等のブランド向上、行政と連携した産業誘致などに取り組み、地域活力の創造に取り組んでいきます。

③社会生活インフラ支援

変化が大きな時代において、環境の変化にしなやかに対応し、さまざまな課題に取り組んでいくには、その基盤となる社会生活のインフラが不可欠です。

県民全体が安心・安全・利便性を享受でき、住みやすい、「魅力あふれる長崎のまちづくり」に貢献していきます。

④ゆたかさ創出支援

人生100年時代において、すべての世代・それぞれに経済活動の機会があります。当行にお取引をいただいているお客さまが、金融サービスの利用を通じて、「ゆたかさ」を実感できるよう、グループ総合力を活かした、多様なサービスを展開してまいります。

⑤人財育成・組織活性化

共創型ビジネスの確立に向けた戦略を実行していくための原動力は「人」であるため、行員一人ひとりの「個」の力をつなぎ、大きな力に変えていく、「組織力」が重要となります。

地域への貢献、お客さまのお役に立ちたいという強い信念を持ち、多様化するニーズに対応できる人財育成と、組織活性化の土台づくりの強化に注力していきます。

地域経済の持続的な成長に向けて

長崎県のリーディングバンクとして、地域の課題解決に主体的に責任を果たし、すべてのステークホルダーが真のゆたかさを実感できる未来を形づくるのが私たちの果たす使命です。

地域経済の持続的な成長を実現するために、共創型ビジネスを通じた「元気」で「ゆたかな」地域社会を創り出すことを目指しています。

これからの十八親和銀行にご期待いただくとともに、これまで同様のご愛顧とご支援をどうぞよろしくお願い致します。



営業担当者の想い

十八親和銀行 佐世保支店
(現：本店営業部)

本多 美有



私は、法人・個人のお客さまそれぞれのライフプランに寄り添いながら、資産形成や資産活用のご提案を行うFC業務を担当しています。お客さまから「何でも相談できる相手」として信頼していただけるよう、日々の営業活動に取り組んでいます。そのため心がけているのは、「自分の家族のようにお客さまと接すること」です。

家族であれば日常の出来事、趣味の話、将来のことや心配ごと、その他とりとめもない話も自然と交わしますが、一人ひとりのお客さまと家族のように対話を重ね仲良くなることで、お客さまが何に関心を持っているのか、本当に求めていることは何

かが見えてきます。

時にはアプリの使い方だけで面談が終わることもありますが、それでも目の前のお客さまのために何ができるか、何かしたいという強い思いをもって行動することが、お客さま自身もまだ気づいていない新たな選択肢や、一歩先の将来を見据えたご提案につながっていると実感しています。

また、私が所属する佐世保支店では、お取引先の従業員の方へ職域セミナーを積極的に行っています。普段窓口へご来店ができないお客さまへ情報提供できる機会であり、「興味はあったけど話を聞く時間がなかった。これを機に少しずつ将来のことを考えたい」と言葉をいただくことがやりがいに繋がっています。

地域において高いシェアを持つ当行だからこそ、より多くのお客さまが将来のゆたかな生活に向けて行動するきっかけを提供できていると感じています。FFGには、お客さまの未来を実現するための多様な商品・サービスが揃っています。ながさを“もっと”元気にするために、FFGならではの「一歩先に行く発想」で、これからも長崎県の持続的な経済発展に貢献していきます。

福岡中央銀行頭取メッセージ

福岡中央銀行
取締役頭取

荒木 英二

地元の事業者の方々に寄り添い、
お客さまへの支援を通じて、
地域のゆたかさの実現に貢献する
～「シン・中小企業専門金融機関」を目指して～

福岡県の成長、当行の立ち位置

当行が拠点を置く福岡県の歴史をみると、福岡地区は商業の街として、筑豊地区は炭鉱開発に伴う石炭産業の街として、北九州地区は製造業の街としてなど、地域ごとに特色を持って成長してきました。近年、スタートアップの起業や人口増など福岡地区の成長が目立ちますが、北九州地区でもIT企業や半導体企業の誘致が進むなど、各地域で成長が続いています。この成長を支えているのは、進出企業だけではなく、その活動をサポートする地元の中小企業です。当行はそうした地元の中小企業のお客さまを中心に長年お取引をいただいております。営業担当者のお客さまに寄り添う人間味溢れる営業スタイルにより、その繋がりやの深さを強みとしております。この強みは、デジタルやAIの導入が進むこれからの時代においても不変のものであると考えております。私たちは、デジタルも活用しながらお客さまの利便性を高めるとともに、お客さまのことへの理解をより深め、引き続き「人」によるきめ細やかなサービスを提供してまいります。

今回新たに理念体系を策定し、創りたい社会を「経済的・物質的・精神的にゆたかな地域社会」と定めました。福岡の中小企業数は全体の99%を占め、そこで働く従業員の方々は全体の8割ほどを占めるなど、中小企業の成長こそが将来の福岡の成長・ゆたかさにつながると捉えています。そのため、この創りたい社会を実現するにあたり、これからも地元のお客さまの経済活動や、事業の維持・成長を支えるという「中小企業専門金融機関」としての使命と役割を果たしてまいります。

長期的に目指す姿

経営統合後、FFGの一員となりましたが、グループ内には同じく福岡に拠点を置く福岡銀行があります。「FFGの中で、福岡中央銀行はどのような役割を果たすのか」、「私たちはこれから具体的に何をを目指すのか」など、FFGの一員として、当行が長期的に目指す姿を明確にするため、不変の価値観である「中小企業専門金融機関」の再定義を行い、その在り方を昇華させる形で目指す姿を「シン・中小企業専門金融機関」といたしました。

この目指す姿の「シン」には3つの意味を込めています。

① 中小企業・小規模事業者のお客さまに特化した斬「新」な銀行

行員一人ひとりが「中小企業専門金融機関」の一員であるとの矜持を持ち、銀行全体で「福岡の中小企業・小規模事業者のお客さまの事業の維持・成長に資する」商品・サービスの提供に集中できる機能・体制を有することを目指します。

② お客さまに対し従業員や家族のように「親」しく接する銀行

足繫く通うことで、お客さまにとって、「自分たちを大切にしてくれる担当」、「気心の知れた仲間」となることで、困ったときに何でも相談しやすい身近な存在となることを目指します。

③ 課題解決に「真」剣に向き合う銀行

お客さまの課題を自分事として捉え、営業成果に直結するかどうかに関わらず、どのようなことでもお客さ

まからのご相談には迅速に応えることで、お客さまと強い信頼関係を築くことを目指します。

この目指す姿を実現させ、FFG一体となって地元のお客さまへのご支援を広げていくため、当行はこれまで以上に、強みである中小企業のお客さま向けのビジネスに注力し、事業の維持・成長に必要なサービスをFFGと連携しながら提供してまいります。

第8次中期経営計画

今年度からスタートした第8次中計では、長期的に目指す姿の実現のため、今後3年間を変革の第一段階とおき、営業・体制・組織の“進化”によって、土台固めを強力に押し進める期間と位置付けます。

新しい中期経営計画を遂行するにあたり、当行は次のとおり3つの基本方針を掲げ、4つの基本戦略「営業」、「人材」、「事務IT」、「経営基盤」を中心に各種取り組みを展開してまいります。

① 「福中流ゴールベース型営業」の追求

私たちが有する顧客ネットワークや強みを活かせる中小企業・小規模事業者のお客さまに特化し、頻繁な訪問・対面営業によりお客さまとウェットな人間関係を築いていきます。

営業担当者の想い

福岡中央銀行 本店営業部

浦川 直仁



私は福岡中央銀行の本店営業部で、総合営業を担当しています。

日ごろは地元の中小企業・小規模事業者のお客さまのもとへ足繫く通い、資金調達をはじめとしたさまざまなご要望にお応えしています。

日々の営業活動においては、頻繁な訪問を通じて、お客さまを良く知るところを大事にしておき、お客さまのことをもっと知りたいという素直な姿勢を常日頃から心がけております。何気ない日常会話からでもお客さまの考えられていることや、求められていることを想像し、どんなに小さな悩み事や相談事にも真摯に、スピード感を持って対応することで、お客さまから感謝

② 中小企業専門金融機関を支える体制の進化

本部各部や営業店・ブロック体制の進化を通じて、「中小企業専門金融機関」としての機能・サービスを強化していきます。

③ 働きがいの圧倒的向上に向けた組織変革

働きがい向上に資する(特に「ヒト」への)投資を充実させ、一人ひとりが成長を実感し、やる気とやりがいを持って働ける組織に変革していきます。

これまで培ってきたお客さまとの距離感を変えずに、FFGとの統合効果を上乘せし、グループ全体で質の高い金融サービスをお客さまにお届けすることで、地域のゆたかさの実現を目指します。

これからの福岡中央銀行にご期待いただくとともに、今後とも変わらぬご支援とご愛顧をよろしくお願いたします。



されることが何よりの喜びです。

福岡中央銀行らしさ

私の考える「福岡中央銀行らしさ」とは、「人と人との心の距離の近さ」です。

対面を重視した営業スタイルにより、お客さまと親密になり、何でも相談してもらえるような「お客さまとの心の距離の近さ」に加え、銀行内のコミュニケーションが活発なことから、従業員同士の絆が非常に強いという「従業員同士の心の距離の近さ」があります。

この4月から第8次中期経営計画がスタートしました。これまでどおり「福岡中央銀行らしさ」を大切にしながらも、「シン・中小企業専門金融機関」を目指して、これまで以上に頻繁な訪問・対面営業を徹底することにより、多くのお客さまのお力になれるよう努めて参ります。

これからも、お客さまに当行の魅力を伝えながら、誇りとやりがいを持ち、地域のゆたかさの実現に貢献していきます。